

ILFOCOLOR ECN-2 Developing Kit (2,5 L working solution) は、ロータリー式自動現像機、小型リール現像及び深タンク現像処理用に設計されたモーションカラーネガフィルム用現像処理液キットです。各処理液は濃縮液又は粉剤となっており、最大2.5Lの使用液を作成することができ、1キットで最大30本(135-36exp)または48mまでのモーションカラーネガフィルムを処理することが可能です。ILFOCOLOR ECN-2 Developing Kitは、モーションカラーネガフィルムの処理において、高品質のパフォーマンスを提供します。

1. ILFOCOLOR ECN2 2.5L Kitの内容

処理液	薬品	ボトル又はパックの数	原液容量	使用液	処理本数
プレバス	C1 : PRE BATH	1	粉300g x1	2.5L用	30本/135-36exp, 48m /135
発色現像液	C2 : CD Part-A	1	500ml x1	2.5L用	
	C2 : CD Part-B	1	50ml x1		
停止液	C3 : STOP BATH	1	100ml x1	2.5L用	
漂白液	C4 : BL Part-A	1	粉100g x1	2.5L用	
	C4 : BL Part-B	1	250ml x1		
定着液	C5 : FX	1	525ml x1	2.5L用	
安定液	C6 : STB	1	25ml x1	2.5L用	

- ・ 上記の原液を水で希釈する事で、各処理剤の使用液が2.5L作れます。
- ・ 必要な使用液量に合わせて、原液を量り分けて使用することができます。
- ・ 発色現像液(Color developer)は、Part-A,Bの2本のボトルに分かれています。
- ・ 漂白液 (Bleach)は、Part-A,Bの2本のボトルに分かれています。
- ・ プレバスおよび漂白液 Part-Aは粉剤です。
- ・ 各薬品の注意点、容器の材質等は各容器のラベルに記載されています。

2. 使用液の作り方

*注意事項

- ・ 原液を溶解する水は、規定量の水道水を正確に計り取り、30±5°C程度に温めてから使用してください。
- ・ 溶解後の使用液をしばらく保存する場合は、密閉性のある容器で保管してください。
- ・ 発熱や有害なガスの発生の原因となりますので、決められた組み合わせ以外の処理剤を混合しないでください。
- ・ 現像液 (N1:CD) の原液及び使用液に、その他の処理液が少量でも混入すると、適正な写真性能が得られなくなります。

ILFOCOLOR ECN-2

MOTION COLOR NEGATIVE FILM DEVELOPING KIT

ILFORD

2.5Lの使用液を作成する場合

処理液	薬品	水	Part-A	Part-B	合計
プレバス	C1 : PRE BATH	2450ml	+ 300g		= 2500ml
発色現像液	C2 : CD	1950ml	+ 500ml	+ 50ml	= 2500ml
停止液	C3 : STOP BATH	2400ml	+ 100ml		= 2500ml
漂白液	C4 : BL	2200ml	+ 100g	+ 250ml	= 2500ml
定着液	C5 : FX	1975ml	+ 525ml		= 2500ml
安定液	C6 : STB	2475ml	+ 25ml		= 2500ml

- Pre bathの溶解は、2450mlの水へPre bath 300g (1袋)を溶解することで、2500mlの使用液となります。パウダーが溶けにくい場合は35°C程度まで加熱してください。
- 発色現像液の溶解は、水1950mlへColor developer part-A 500ml (1ボトル)を加え攪拌し、溶液がクリアになってからColor developer part-B 50ml (1ボトル)を加えよく攪拌することで、2500mlの使用液となります。
- 停止液は、2400mlの水へStop bath 100ml (1ボトル)を溶解することで、2500mlの使用液となります。
- 漂白液の溶解は、水2200mlへBleach part-A 100g (1ボトル)を加え攪拌し、溶液がクリアになってからBleach part-B 250ml (1ボトル)を加えよく攪拌することで、2500mlの使用液となります。
- 定着液は、1975mlの水へFixer 525ml (1ボトル)を溶解することで、2500mlの使用液となります。
- 安定液は、2475mlの水へN4:STB 25ml (1ボトル)を溶解することで、2500mlの使用液となります。
- 作成した使用液は、セクション4の表の通り、保管することが可能です。

1.25Lの使用液を作成する場合

処理液	薬品	水	Part-A	Part-B	合計
プレバス	C1 : PRE BATH (*1)	2450ml	+ 300g		= 2500ml
発色現像液	C2 : CD	975ml	+ 250ml	+ 25ml	= 1250ml
停止液	C3 : STOP BATH	1200ml	+ 50ml		= 1250ml
漂白液	C4 : BL	1100ml	+ 50g	+ 125ml	= 1250ml
定着液	C5 : FX	988ml	+ 263ml		= 1250ml
安定液	C6 : STB	1238ml	+ 12.5ml		= 1250ml

(*1) プレバスは常に2.5Lの全量を溶解してください。プレバスの使用液は24週間保管できます。

- 処理するフィルムの本数に合わせて、原液及び水を量りわけて、作成する使用液の量を調整することができます。
- 1.25Lの使用液で、最大15本 (135-36exp) のフィルムを処理することができます。
- 残った原液は、元のボトルにて密閉して保管してください。



1Lの使用液を作成する場合

処理液	薬品	水	Part-A	Part-B	合計
プレバス	C1 : PRE BATH (*1)	2450ml	+ 300g		= 2500ml
発色現像液	C2 : CD	780ml	+ 200ml	+ 20ml	= 1000ml
停止液	C3 : STOP BATH	960ml	+ 40ml		= 1000ml
漂白液	C4 : BL	880ml	+ 40g	+ 100ml	= 1000ml
定着液	C5 : FX	790ml	+ 210ml		= 1000ml
安定液	C6 : STB	990ml	+ 10ml		= 1000ml

(*1) プレバスは必ず2.5L全量を溶解してください。

- ・少量のフィルムを処理したい場合は、できるだけ少ない使用液を準備することが可能です。
- ・上記の表は、1Lの使用液を作成する場合を示しています。12本のフィルムを処理することができます。
- ・さらに少量のフィルムに合わせて使用液を作成する場合は、水と原液の比率を計算してください。ただし、処理機材の仕様によって最低処理液量が必要になります。

3. 処理条件

処理工程	薬品	処理温度 (°C)	135-36exp・120の処理本数と処理時間		
			1~4本目	5~8本目	9~12本目
プレバス	C1 : PRE BATH	27 ± 1	0'10"	0'10"	0'10"
レムジェット除去	tap water	27~38	水洗水がキレイになるまで水洗してください		
発色現像	C2 : CD	41.0 ± 0.2	3'00"	3'15"	3'30"
停止	C3 : STOP BATH	27~38	0'30"	0'30"	0'30"
水洗	tap water	27~38	0'30"	0'30"	0'30"
漂白	C4 : BL	38 ± 1	3'00"	3'15"	3'30"
水洗	tap water	27~38	1'00"	1'00"	1'00"
定着	C5 : FX	38 ± 1	2'00"	2'00"	2'00"
水洗	tap water	27~38	2'00"	2'00"	2'00"
安定	C6 : STB	27~38	0'10"	0'10"	0'10"

- ・上記の表は、基本処理条件で各使用液を1L使用した場合の処理能力の目安です。
- ・処理したフィルム本数によって処理時間が異なります。
- ・発色現像の処理時間は、現像方法や機材の仕様によって修正が必要な場合があります。
- ・停止終了までは、全暗黒で処理してください。
- ・表示されている処理時間は、約10秒間の液切時間を含んでいます。
- ・処理したフィルムのベースの色に異常がある場合は、現像液に漂白液あるいは定着液が混入したおそれがあります。

4. 保存条件

処理液	薬品	開封済み原液	使用液
プレバス	C1 : PRE BATH	-	24週間
発色現像液	C2 : CD	12 週間	1週間
停止液	C3 : STOP BATH	24週間	24週間
漂白液	C4 : BL	24週間	1週間
定着液	C5 : FX	24週間	24週間
安定液	C6 : STB	24週間	24週間

- ・ 開封後の原液は、元の容器でしっかりと密栓し、冷暗所で保管してください。